

令和7年度第6回士別市教育委員会会議録

1. 日 時 令和7年9月10日(水) 午後1時30分～午後4時35分
2. 会 場 士別市教育委員会 会議室
3. 出席者
- | | | | |
|-------|-----------|---------------|-----------|
| 教育長 | 泉 山 浩 幸 | 生涯学習部長 | 丸 徹 也 |
| 職務代理者 | 馬 場 千 晶 | 学校教育課長 | 岡 田 詔 彦 |
| 委員 | 加 藤 洋 之 | 社会教育課長 | 千 葉 真 奈 美 |
| 委員 | 多 田 千 鶴 | 合宿の里・スポーツ推進課長 | 徳 竹 貴 之 |
| (欠席) | 山田 敦久 委員) | 学校給食センター所長 | 河 口 光 輝 |
| | | 学校給食センター副長 | 丸 奈 央 子 |
| | | 士別南小学校栄養教諭 | 藤 川 結 花 里 |
| | | 学校教育アドバイザー | 石 橋 克 敏 |
| | | 社会教育アドバイザー | 森 広 明 |

◇文部科学省研修生紹介

○丸部長

文部科学省からの研修生、森田真白氏を紹介。

○文部科学省 森田真白氏

3週間、士別市教育委員会で研修する。士別市の特徴やいいところを持ち帰り、全国に伝えられるよう、たくさん学んでいきたい。

4. 議 件 (発言者、議事要旨及び議決事項)

(1) 教育長挨拶

【各種会議、イベント等について写真などを用いて説明】

- ・9月に入り市長選挙が行われ、渡辺市長が再選された。
- ・8月21日に稚内で北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会が開催された。加藤委員が2期8年間の勤続表彰を受け、表彰者を代表して挨拶をされた。
- ・士別翔雲高校がウエイトリフティングで、2階級で金メダル、男子学校対抗で北海道勢初優勝を果たした。
- ・実業団チームによる「走り方教室」を士別南小学校で実施。
- ・ダイハツものづくり教室を士別南小、士別小、上士別小で実施。
- ・チアリーダーが全国大会へ出場。
- ・9月6日に士別東高校の学校祭が開催。
- ・文科省など国の予算の概算要求が出ていた。小学校の学校給食の無償化の要求をしている。
- ・学習指導要領改訂に向けて情報提供。
- ・全道へき地複式研究大会の分科会が、昨年に引き続き上士別小学校で行われる。
- ・その他、市民クロスカントリー大会、あさひじゃんじゃんジュビリーについて紹介。

(2) 議事について

○泉山教育長 進行

議案第12号 令和7年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価（令和6年度事業）について、説明を求める。

○岡田課長

令和7年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価に関する報告書について説明する。9月4日に5人の評価委員に、6年度事業についての点検・評価を確認いただいた。

【教育委員会の活動状況、教育委員会議の開催状況、評価方法について説明し、23事業26調書について各担当課から説明】

6年度事業は、26調書のうち「A」が11、「B」が15となった。5年度事業は「A」が16、「B」が10であったが、今年度の評価は、改善すべき点がある事業は「B」としたことから、昨年の評価に比べて「B」が増えたところであり、この点について評価委員の皆さんからの意見はなかった。

教育委員が会議で承認後、10月3日開催の第3回定例会に提案する。

○泉山教育長

点検・評価の内容について説明があったが、委員の皆さんからご意見などはあるか。

○馬場代理

18ページの農業学習について、一部見直しが必要なところがあるので評価が「B」ということだが、その一部見直しが必要なところは、どの辺りになるのか。みのりの先生は各学校に配置できているのか。

○岡田課長

配置できていないところもあるので、そういう課題があるとか、農業学習の時間が「総合的な学習の時間」の中で半分ぐらいを占めているところもあって、その配分がそれでいいのか、見直しをして少なくするのか、学校との協議も今後必要になると考えていることから、評価を「B」とした。

○加藤委員

総合的な学習の時間のうち農業学習の割合が多い。農業は基幹産業であるが、商工業もある。

農業教育だけが本市の産業なのか。土別市を知るうえでは、他にも教えてあげた方がいいことがあると思うし、見直しも必要なのではないか。

15ページのデジタル教科書の実証事業に参加しているというのは、どのような感じなのか。デジタル教科書の活用が達成状況ではない気がする。

デジタル教科書から離れている国もあるという状況もあるなかで、実証事業に参加して活用した結果がどうなのか。それを使って何かしらの成果がある、子どもたちの学習能力は変わらないとか、評価はどのようになっているのか。

○岡田課長

農業学習については、時間数の多さであるとか、都市教委連の中でも話題になったということもあり、学校と協議しながら今後に向けて検討していきたい。

デジタル教科書については、実証事業に参加して結果まではまだ見えていないのではないかと考えている。デジタルがいいのかという部分でいくと、以前に教育長のお話にもあったとおり、デジタルとアナログを合わせて使うことで成果が得られることもあると思う。

市議会の一般質問でも、他の国ではデジタルを進めていたがアナログに戻ってきているという話題になった。デジタルだけがいいとは思ってはいなく、今後の国の動向も踏まえながら検討していきたい。

○加藤委員

デジタル教科書を使用して、どのような成果が出て、どのような結果になっているのか、文科省がどのように考えているのかがわからないと対応のしようがない。士別市だけでそれを判断できるわけでもない。

○泉山教育長

令和5年、6年で教科書を変えている。今度の教科書改訂は小学校が令和10年、中学校が11年で、今度の採択から紙とデジタルと2つ出ることになる。

現在、外国語と算数・数学を無償で教科書実証事業を行っている。学校はほとんどが紙の教科書を使用しているがデジタル教科書も使えるようになってきている。

4年後、5年後の採択のときに直面する。紙の教科書にもQRコードがあって、タブレットで読み取れば、動画が出てきたり、紙の教科書の中でもデジタル教科書の1割か2割の機能がついている。

○泉山教育長

その他についてはどうか。

○多田委員

中学校の部活動のあり方の検討について。達成状況に「新たに卓球部を追加し、活動の機会を確保」とあるが、吹奏楽部では士別南中の部員は14人か15人、士別中は3年生が15人だが、3年生が抜けると13人とか14人になる。吹奏楽部も人数確保が難しくなっていて、文化部にも拠点校方式を取り入れるよう、検討した方がいいのではないかと。

○岡田課長

拠点校方式は、平成30年頃に始まっている制度で、当時は士別中、士別南中のどちらかの部活動が人数の都合で廃部になるときに、別の学校の部活動に参加できるというのが拠点校の制度。現在は、合同チームやクラブチームも含めて、中体連大会に出場できるなど、拠点校方式ができた当時と変わってきている。

拠点校部活動ということで、昨年は卓球部を追加したという部分では、実際に部活動が存続できないとのことから拠点校とした。

今年度は、男子バスケットボールが拠点校部活動として活動できていたが、存続することが難しいということがあり、現在は地域クラブ化に向けて動き出そうとしている。

今後の動きとしては、令和8年度から10年度の3年間で、休日の部活動の地域展開を進めていくため、吹奏楽部についても地域で受け入れ可能かというところを今後進めていきたい。

○泉山教育長

部活動の地域展開と聞くと運動部が多いが、文化部である吹奏楽部についても、これから文化協会と連携して進める必要があるが、指導者の確保が難しい。合同チームという形で、曲に合わせて人数が必要な場合は合同にするなど、柔軟な対応ができればいいと思う。

その他についてはどうか。

○馬場代理

学校が減っている中で、士別市は24人の支援員を配置していて、手厚い支援を行っているということで喜んでいいのか、これだけの人数が必要だという現実を重く受け止めた方がいいのか。

ウィズは今、小学生、中学生が何人通っているのか。

○石橋アドバイザー

小学生、中学生あわせて13人と聞いている。常時利用している子や、時々くる子、まったく来て

いない子もいる。今日の体育では、小学生が3人と母親3人が来ていた。子どもだけでは来られず、母親と一緒に来ており、母親が最初トイレにも行けないぐらいだったが、ちょっとずつ離れて、同じ体育館の中にも、母親と子供は違う活動も少しずつできるようになってきている。

○加藤委員

発達障害やいろいろな障害が細分化されている中で、支援員さんがある程度、障害のことを理解していない状態だと、指導が大変だと思う。

やはり学べるような機会を、そういう子供たちの教育をこれからも充実させて、次に繋いでいけるような施策が国から出てくるといいと思う。

士別市のように、支援員を多く配置して、子供たちの成長を促していこうという風に、国の政策として動いていただけるとありがたいと思う。

○泉山教育長

子供の人数が減っているが、特別支援学級の在籍率は高くなっている。将来的には、全体の数が減ってくるので特別支援学級の数も減ってくるが、教育委員会としては、多様化に対応できる人員体制を確保していきたい。

○馬場代理

41 ページの小中学校適正配置計画について、小中学校に限定されているが、東高校はどのページに入るのか。25 ページに学習内容などは書かれているが、校舎の部分についてはどこの入るのか。

○丸部長

校舎の部分は施設整備費になるが、小中学校とは別で高等学校の施設整備費になる。

○泉山教育長

内容については、文言整理なども含めてさせていただく。

○泉山教育長

議案第13号 士別市における令和7年度全国学力・学習状況調査の結果等の分析について、説明を求める。

○石橋アドバイザー

例年、学力調査の分析、ホームページへのアップロード、報道機関への情報提供っていうのを行っている。最後の分析、今後どうしていくかという部分について、今年度、社会教育アドバイザーに就任した森アドバイザーの力添えを受けて資料を作成している。

(分析結果について説明)

本年度は、小学校、中学校ともに正答率が全国値、全道値を上回って、子供たちがその学年の中で、身につけるべき資質能力、基本的あるいは基礎的な力が、達成できていると判断できると思う。ただ、先ほどの教科でも、記述式の問題が、全国的な傾向とはいえ他に比べて正答率が低いということは、今後のいろいろな教科の中で書くという作業についての指導方法を工夫していく必要があると思う。

○森アドバイザー

石橋アドバイザーが分析をしたものを基に、より焦点化、具体化をすることによって、今後の対応について作成した。

主に、課題傾向に沿って今後の対応をこう考えたらいいのではないかというところを記述した。

(分析結果について説明)

公表資料として別紙にまとめており、1 ページ目は、全教科で全道値、全国値を超えており、特に中学校の平均正答率が昨年度調査よりも全国と比べて7ポイントから15ポイント向上したということ

ころは大きな特徴である。

2ページは、左側の2つが教科を中心とした学力・学習の状況で、小学校では国語、算数、理科の学力や、意識、意欲面であるとか、領域別に分かれているところをまとめた。右側が、その他の学習習慣や自己肯定感などを示しており、真ん中の全国平均をほぼ超えているが、課題領域はあるというところをご覧いただきたい。その下は正答数分布図で、全国と士別市は変わらない状況である。

3ページは、質問紙の中で特に青い丸と赤い丸は良い面、課題抵抗の項目で載せている。小中学校のICT活用が非常に高い項目。そして、小学校の家庭学習、学び方の工夫や、中学校の学校が楽しいという回答が全国を上回っていて、課題項目が、小学校の普段の生活の中で幸せな気持ちになる頻度、学校以外でのICT機器の活用状況、中学校での家庭学習というのは課題傾向と捉えている。

4ページはクロス集計を示しているが、自己肯定感や読書好き、学びを生かしたまとめ方が高い子ほど平均正答率の高いというのが、この結果に出てきている。

○泉山教育長

皆様からご質問などはあるか。

(意見なし)

この分析結果をホームページに掲載する。

○泉山教育長

議案第14号 令和8年度から使用する高等学校教科用図書の採択について、説明を求める。

○岡田課長

4、5ページに令和8年度に使用する教科書の一覧で、東高校で使用する教科書で、各教科の状況を記載している。

6ページに、この教科書採択に関する観点ということで、教科書の採択は、知識及び技能の活用、思考力、判断力、表現力等及び学びに向かう力、人間性等の発揮により、バランスの良い資質能力の育成に向けた主体的、対話的で学びの深い実現に資する学習活動ができるよう、内容相互の関連が図られていることを前提に、以下、記載のとおりで、詳細な説明については省略する。

○泉山教育長

高等学校の教科書は、各学校が教科担当と教頭、校長が相談して決めている。

このような形でもよろしいか。

(全員了承)

○泉山教育長

議案第15号 士別市高等学校バス通学費補助用鋼の一部を改正する要綱について、説明を求める。

○岡田課長

改正事項については、10月1日の士別軌道のバス料金改定に伴い、通学費の補助金額にかかる部分、保護者の方が負担する金額の改正となる。

13ページに、この改正の考え方を載せており、バス運賃の改定に伴って、この要綱で定めている補助金額の見直しが必要となったもの。

補助金額は定期券代の65パーセントを自己負担額とし、超過分を補助するということになっており、改正案の表、東高校では、自己負担額が1万1,450円から1万6,850円、片道では5,720円から8,430円となる。翔雲高校では、同じく65パーセントを超過する額を補助ということで、自己負担額が往復1万8,290円から2万1,870円、片道では9,140円が1万930円へ改正となる。

バスの運賃改定に伴い、本来であれば自己負担を上げないようという考えもあるが、65パーセン

トを維持して超えた分を補助するという考えで、このような改正を考えている。

○泉山教育長

バス料金の値上げに伴っての改正だが、何割ぐらい上がるのか。

○岡田課長

5割アップで1.5倍くらいになる。

○加藤委員

中学生が減っているというか、高校がどんどん減っている状態で、翔雲高校も何か考えていかないとならない。バスの補助が大きくなれば、保護者もちょっと動くというか、色々そういうお金がかからなければ、ある程度通わせるメリットもあるのではないかと考えて伺った。

○泉山教育長

なるべく自己負担が少ないように教育委員会としても考えていきたいと思うが、このような形で改正することとしてよろしいか。

(全員了承)

○泉山教育長

議案第16号 令和7年度士別市教育委員会補正予算について、説明を求める。

○徳竹課長

スポーツイベント開催事業について補正で、来年2月19日から23日の期間で、第99回全日本学生選手権大会、いわゆるインカレが、名寄市と士別市で合同開催される。大会運営費として、学生連盟から運営団体、それぞれ名寄地方スキー連盟、朝日スキー連盟に350万円が支払われるが、名寄と士別でそれぞれ必要経費を積み上げたところ、450万円が100万円不足することから、そのうち士別の不足分31万1,500円を補助金とするもの。朝日スキー連盟でかかる総事業費136万1,500円で、350万円のうち配分される分が105万円であるため、不足額が31万1,500円となり、31万2,000円の補正要求額になる。

2月の21日と22日、ジャンプとコンバインドということで、士別で開催することになっている。ジャンプの男子の2部と3部が朝日三望台ジャンツェで行うということで、58名中28名、女子ジャンプは17名中2部の6名。コンバインド男子50名のうち、2部、3部の26名、コンバインド女子14名で、選手総勢74人で、おそらく協議役員として50名程度が来ることになる。宿泊等については、調整中となっている。

○泉山教育長

補正予算についてはよろしいか。

(全員了承)

(3) その他

◇令和7年度士別市学校給食嗜好調査結果報告について

○丸給食センター副長説明

・調査の目的、ホームページ等で公表することについて説明。

○藤川栄養教諭説明

・アンケート結果について説明

◇フッ化物洗口の実施について

○岡田課長説明

・実施内容、スケジュール等について説明

◇上川管内教育委員会連合会第2回委員研修会について

○岡田課長説明

・10月21日に開催する会議について説明

◇市内小・中学校学芸会及び学校祭について

○岡田課長説明

・学芸会、学校祭の日程と教育委員の出席について確認。

◇当面する今後の日程について

○丸部長説明

午後4時35分、会議の終了を宣した。

この会議は、会議の顛末を記載し、相違ないことを証するため署名する。

署名者 泉山浩幸

会議録調整者 岡田 詔彦